



7/23▶25 みなと祭



7/19 かわのえ夏まつり花火大会



8/10 新宮盆踊り大会



8/2 湖水まつり



8/15 土居夏まつり



7/26▶27 紙まつり



四国中央市

夏祭り
ニホン

今年も、市内各所で花火大会や踊り大会が開催され、多くの市民や観光客が「日本の紙のまち」で開催された夏の風物詩を満喫しました。花火大会は、天候にも恵まれ、夜空を彩った光の美しさに、各地で歓声が上がりました。

踊り大会では、色とりどりの衣装に身を包んだ踊り子たちが、華やかなパフォーマンスを披露し、まちに活気と笑顔呼び込みました。



やまじ風対策協議会・三島南中学校気象部 大阪管区気象台長表彰を受賞

日本三大局地風の一つ「やまじ風」を研究する2つの団体が、長年にわたる気象観測と防災への貢献を評価され、大阪管区気象台長表彰を受賞しました。

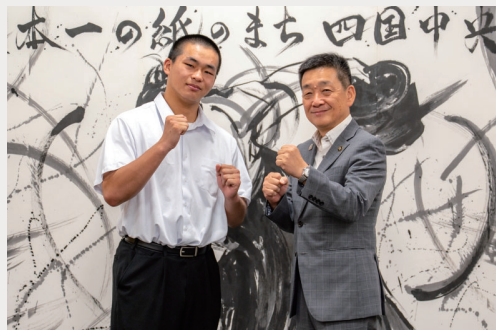
7月18日に三島南中学校で行われた表彰式には、同校の卒業生で松山地方気象台の高見佳浩台長（写真左）が出席し、後輩たちの功績をたたえました。



エリエールスポーツクラブの8選手 水泳の全国大会に出場

8月1日、県中学総体などで優秀な成績を収めたエリエールスポーツクラブの8人が、大西市長を表敬訪問し、同月に出場される全国大会への出場を報告しました。

写真左から、玉井豪大（川之江北中3年）、尾藤歩大（同）、脇栞那（同2年）、徳永圭太朗（川之江南中1年）、宮崎倅歩（三島東中3年）、森下泰明（同2年）、穂波慶（同1年）、星川夏伊（南小6年）



三島高校柔道部 芝山哲平さん 全国高等学校総合体育大会に出場

県高校総体で見事優勝を飾った三島高校柔道部3年の芝山哲平さんが、8月13日から岡山県で開催された全国大会に出場を果たしました。

大会を前にした8月5日に大西市長を表敬訪問した芝山さんは、「高校生活最後の大会に、持てる力の全てをぶつけたい」と力強く意気込みました。



拍手喝采演劇祭 四国の真ん中で高校生が熱演

7月13日、四国の演劇強豪校による四国高等学校演劇祭が、しこちゅーホールで開催されました。

開催地を代表して出場した川之江高校は、温泉旅館で繰り広げられるドタバタ劇に、性的マイノリティを取り巻く社会課題を盛り込んだ作品を上演し、観客から大きな拍手と称賛を受けました。



中学硬式野球チーム「伊予三島リトルシニア」 近畿・中四国大会に出場

少年硬式野球の四国ブロック大会で準優勝を果たした伊予三島リトルシニア（伊藤斗亜主将・川之江北中3年）が、8月に兵庫県で開催された「オリックス・パファローズカップ」に出場しました。

大会を前にした7月23日、選手12人が大西市長を表敬訪問し、大舞台での健闘を誓いました。



全国中学校体育大会（陸上競技・柔道） 出場選手が健闘を誓う

8月5日、県中学総体で優秀な成績を収めた中学生6人が大西市長を表敬訪問し、同月に福岡県などで開催される全国大会への意気込みを伝えました。

写真左から、
陸上競技
岡本杏（川之江南中3年）
柔道
高橋音（三島南中3年）
石川奈緒（川之江南中3年）
井川彩華（川之江北中2年）
森田大志（三島南中3年）
藤井哲成（同）

終戦から80年 平和への誓いを新たに

終戦から80年の節目を迎えた8月15日。松山市の県民文化会館で戦没者追悼式が開催されました。本市からは遺族18人が出席し、今日の平和のために戦争で命を落とした方々へ、追悼の意を捧げました。

本市では、15日から2日間にわたり、中曽根町の三島公園にある慰霊塔が開帳され、訪問者が戦



争の犠牲となった方々の冥福を祈るとともに、恒久平和の実現へ思いを新たにしました。

また、8月4日から15日に掛けて、市内3か所で平和祈念パネル展が開催されました。来場者は、展示された戦時中の市内の写真や核兵器の脅威を伝える資料を通じて、平和の大切さを改めて感じていました。



もしもの時の断水に備えて 脇農機が折り畳み式水タンクを寄贈

7月25日、土居町土居で農機具の販売・修理業を営む脇農機（脇貴光代表・写真右）から、「土砂災害による断水のリスクが高い山間部に備蓄してもらいたい」と、200口の折り畳み式水タンク5基と10口の非常用給水袋100枚が寄贈されました。水タンクなどは、新宮地域の避難所に配備されます。



7月13日、市道「寒川中央線」の開通を祝う式典が、この市道に架かる令和橋の上で行われました。

寒川中央線は、市道寒川豊岡線（旧国道）を起点とし、国道11号を終点とする、全長約360分の道路です。地元住民からの熱心な要望や建設事業への協力を受けて、晴れて開通を迎えました。



この感動を全国に届けたい 書道の甲子園の切手シートを発売

7月27日開催の書道パフォーマンス甲子園を更に盛り上げようと、日本郵便株式会社四国支社が大会のオリジナル切手シートを製作し、県内の郵便局やオンラインショップで販売しました。

7月17日、葛本武彦伊予三島郵便局長（写真左）が市役所を訪れ、大西市長に切手シートを贈呈しました。



市発足20周年を記念して製作し、現在市内23か所に設置されている書道パフォーマンス甲子園のマンホール蓋が、全国のマンホール愛好家を選ぶ「日本マンホール蓋アワード」で、大賞と新人賞に輝きました。

7月18日に市役所で表彰式が行われ、主催者から表彰状と盾が贈られました。

足元から日本一！ 書道の甲子園マンホール蓋がW受賞



脱炭素で選ばれる企業へ 四国中央市CN協議会がセミナー



7月18日、産学官金の連携で脱炭素を目指す「四国中央市カーボンニュートラル協議会」のセミナーが、川之江ふれあい交流センターでありました。

セミナーには、市内企業などから約100人が参加し、脱炭素が経営や地域にもたらす効果を学びながら、日本一の紙のまちの未来に思いを馳せました。

商工業と市政の発展のために 四国中央商工会議所が渋滞対策を要望



7月16日、四国中央商工会議所（井上治郎会頭・写真中央）から大西市長に、交通渋滞対策を求める要望書が提出されました。

要望書では、商工会議所が調査、研究した市内の渋滞箇所を4つの対策方法で分類し、重点的な対策が必要な地点として15か所を挙げています。

大西市長に要望書を手渡す井上治郎会頭と井川高幸副会頭（写真左）



物流でまちを PR

**日本一の紙のまち
ラッピングトラック
運行中！**



7月30日にお披露目された2台のラッピングトラック。1台は静岡、もう1台は大阪と本市を往復する

村松町に本社を構え、物流サービスを手掛けるトーヨー・ロジテック株式会社（西岡 齊代表取締役社長）が、本市の魅力を伝えるラッピングトラック2台を製作し、8月に運行を開始しました。

20トトラックのアルミ製の荷台には、本市を象徴する風景やマスコットキャラクターのしこちゅーがデザインされています。

二十二歳の遺書

我が家に遺された辞世の一筆は、父・泰三の長兄・大西明が戦地へ赴く前夜、東京都板橋区に住む大叔父の大西観市に託した22歳の遺書で、昭和19年4月8日消印の速達で川之江に届いた。

「桜花爛漫を競ふ候となりまし。卒業以来待ちにまつた赴任も眼前に迫り内地最後の便りの筆を取ります。回顧せば二十有余年伊予名もなき一町に何の不自由も知らず温き父母の懐に育てられた自分も今は国家の干城として勇躍南の決戦場に臨むことが出来ます」から始まる654文字の達筆である。

この後、明は陸軍航空隊・第21飛行場大隊の下士官として、船は危険だからと上官を乗せて安全策を採ったはずの輸送機が台湾に墜ちて4月11日に殉じた。

明が全幅の信頼を寄せた観市翁は、地元有志と共に戦前戦後の機械抄製紙の振興を支え、(株)丸井製紙工場の初代社長を務めた後、戦時中は日本和紙統制(株)の代表などを歴任し、戦後には川之江町長も務めた人である。製紙業界の重鎮から、その事を肝に銘じて産業振興に励むよう小職も薫陶を受けた。観市翁のように仕事を通じて故郷



四国中央市長
大西賢治



に貢献できる人間になりたい！そんな明の遺志が泰三の体を突き抜けて小職の心に突き刺さっている。

お盆も近い8月10日、明の誕生日の前日に、ノーベル平和賞を受賞した日本被団協の松浦秀人氏の講演を拝聴する機会に恵まれた。胎内被爆者として核兵器廃絶を世界に訴える運動に、人生の大半を捧げてきた氏の熱弁に共感し「二度と戦争を起こさない」という思いを市民・国民の総意としなければならぬと再確認した。

明の遺書は、小学生の泰三に宛てた次の一節で締めくくっている。

「元氣アマイニ勉強シテイルダラウ兄サンモ強イ兵隊ニナツテ敵兵ヲヤツツケルタメニ南ノ方ヘ行く姉サン達ト仲ヨクシ弟ヲカハイガリ強イ子供ニナリオ父サンオ母サンニ孝行セヨ」こんな戦争を二度と起こしてはいけない！とは言えない中での渾身の一筆である。

いつのことかは覚えていないが、思春期に出逢った明の22歳の遺言が、小職の人生を大きく左右したことは間違いない。